

アルミ缶 リサイクル ニュース

January
1
2023

Vol. 162



アルミ缶リサイクル協会

Japan Aluminum Can Recycling Association

東京都豊島区南大塚1-2-12 日個連会館2階
Tel.03-6228-7764 Fax.03-6228-7769 〒170-0005
<http://www.alumi-can.or.jp>

2023年 年頭所感

2023年理事長新年挨拶

新年あけましておめでとうございます。

2023年の年頭にあたり一言ご挨拶を申し上げます。

昨年は新型コロナウイルス感染防止への行動制限も徐々に緩和され、秋口以降はマスクの着用や手指の消毒などの各人の感染防止を前提に、行動制限自体はほとんど無い生活が戻ってまいりました。まだまだ油断は出来ませんが、人々の行動に活気が戻ってきたことは大変喜ばしいことと思います。しかし一方で、ロシア問題などからアルミ価格やエネルギー費が高騰し、また円安の影響もあり諸物価が高騰を続けており、経済面では先行きを楽観視出来ない状況です。このような状況下、アルミ缶のリサイクル活動に携わる皆様は引き続き徹底した感染防止策を取られ、さまざまな工夫をなされて堅実な活動をされたと拝察致します。皆様のご尽力に心から感謝申し上げます。この感染症につきましては予断を許さない状況が続くと思われませんが、皆様の活動支援に引き続き鋭意取り組む所存でございますのでよろしくお願い申し上げます。

環境面に目を向けますと、これからは国内での資源循環の強化とカーボンニュートラルに向けた取り組みが重要課題となります。ご存知の通りアルミ新地金は全量を輸入に依存していますが、新地金の生産には大量のエネルギーを要し、LCAの見地からは新地金の使用を再生地金の使用へと転換することがカーボンニュートラルに繋がることとなります。カーボンニュートラルの推進を図るため、一部ではグリーンアルミの採用を始めているケースもありますが、グリーンアルミの供給量は現時点ではまだ十分で無く、当面は再生地金の使用拡大による対応が求められます。日本では資源物の分別回収が進んでおり、これを国内できちんと再生利用することが上記二つの重要課題への対処に繋がります。当協会としてもこの二つの課題解決に少しでも貢献できるよう、アルミ缶の再生利用メリットを解り易くお伝えする資料を整え、リサイクル量を安定確保するとともに国内での再生利用量の拡大に努めてまいります。

さて昨年のアルミ缶市場は、行動制限の緩和に伴い清涼飲料缶の需要が若干増加した一方で、アルコールの外飲が増えたためにアルコール缶の需要が減少した模様です。これによりアルミ国産缶全体の年間需要量は2021年より1~2%減少した模様です。ただし、9年連続で年間200億缶を超えたアルミ缶が国内で消費されたと見込まれます。

当協会は容器包装八団体で構成する「3R推進団体連絡会」のメンバーですが、アルミ缶の3Rは2025年までにリデュース率6.0%以上の達成とリサイクル率92%以上の維持を目標に活動しています。2021年度の実績はリデュース率が6.2%、リサイクル率が96.6%となり、それぞれ2025年度目標を達成しましたが、これに安堵することなく引き続き更なる向上を図るべく関係各位への支援・啓発に努めてまいります。

アルミ缶はその優れたリサイクル性を持つ容器として早くから皆様に認知され、回収活動は容器包装八団体の中では比較的早期に始まり、今や全回収量の約半数を集めている集団回収団体(学校、自治会、老人会、子供会、福祉施設など)、消費者、省庁、自治体、事業者のご協力もあり、リサイクル率は安定して92%以上が維持されています。関係各位には改めて深く感謝の意を表しますとともに、長年に亘るアルミ缶回収活動へのご協力に対し厚く御礼申し上げます。当協会と致しましても表彰制度や展示会、出前教育などによりアルミ缶のリサイクル活動の啓発に努めてまいりますので、引き続き皆様のご支援を賜りたくよろしくお願い申し上げます。



アルミ缶リサイクル協会
理事長 花房 達也

3R推進団体連絡会 自主行動計画2025のフォローアップ報告

12月14日、当協会を含む容器包装の3Rを推進する8団体が纏めた自主行動計画2025の2021年度フォローアップを経団連会館にて行いました。

この自主行動計画は、容器包装の3R、特にリデュース、リサイクルの推進を軸に、事業者が自主的に取り組んでいるものです。

リデュースは、軽量化・薄肉化など資源の有効活用とごみの減量化を目指す取り組みで、2021年度は8素材中5素材（ガラスびん、PETボトル、スチール缶、アルミ缶、紙製容器包装）が2025年度目標を上回って進捗しています。

リサイクルでは6素材（ガラスびん、PETボトル、スチール缶、アルミ缶、プラスチック容器包装、段ボール）が2025年度目標を達成するなどの成果がみられました。

また、容器包装3R推進フォーラム、セミナーの実施や地域での3R市民リーダー育成などを継続実施しました。

普及・啓発としては、関係各主体との連携・協働への取組みを深化させました。当協会からは3R実績報告と共にコロナ禍でもアルミ缶の自主的集団回収活動が活発に行われたことを報告しました。



2022年度(令和4年度)回収協力者表彰

全国各地で表彰式

当協会は、アルミ缶の回収活動を行っている団体の中から、優秀な活動実績をあげられた方々を毎年表彰しています。本年度は全国で一般 62 団体、小・中学校 41 校（受賞者の詳細は前号 Vol.161 に掲載）、10 月中旬から12 月にかけて全国で表彰式が開催されました。関東地区の受賞者につきましては、11月11日に千代田区竹橋の如水会館に於いて合同表彰式が開催され、同時に本年度優秀回収拠点再選1社につきまして表彰を実施しました。

アルミ缶一般回収協力者合同表彰式【関東地区】及び アルミ缶優秀回収拠点表彰

本年度の合同表彰式は、関東地区の受賞団体12団体をお招きして開催致しました。表彰に先立ち理事長の花房より「昨今テレビなどで地球環境、循環型社会、サステナブルという言葉が聞かない日は無いですが、アルミ缶の回収は長年実施して50年目を迎えています。昨年度のアルミ缶のリサイクル率は96.6%とほぼ完璧に近い数字を得ています。これは、皆様のご協力があったことで皆様に感謝しております。年間31.9万トンも回収しその半分は皆さんの活動で回収されています。自信とプライドを持って今後とも活動して頂きたい。日本を資源循環型社会の模範となるように協力してください。」と挨拶がありました。

来賓を代表して、経済産業省 製造産業局 金属課 金属技術室長 伊藤 隆庸 様より「アルミ缶一般回収協力者表彰並びにアルミ缶優秀回収拠点表彰を受賞された皆様方に心よりお祝い申し上げます。2021年度のアルミ缶のリサイクル率が96.6%と高いのはここにお集まりになられている地域の自治会、福祉団体、回収の改善にご尽力頂いた皆様方の活動の成果です。

アルミニウムの輸入供給が不安定な中でアルミの資源循環社会の実現が重要です。カーボンニュートラルにおいてアルミ缶のリサイクル活動は必須であり鉱物の採掘を減らし、エネルギーも減らす正に付加価値の高い活動です。皆さん一人一人の意識や地域による自主的な取り組みが重要になってきます。引き続き取り組みを継続してアルミ缶の回収活動に貢献してください。」とのご挨拶を頂きました。

乾杯に先立ち、日本アルミニウム協会 企画部門長 飯田 康二様より「コロナ禍で苦労されている中、アルミ缶回収に協力頂きまして誠に有難う御座います。2020年度は一般家庭から出るアルミ缶29.8万トンの内、集団回収されるアルミ缶は約半数の14.5万トンと集団回収なくしてはアルミ缶のリサイクルが成り立たない状況となっております。アルミ缶は軽量でリサイクル性も高く遮光性が高いので賞味期限が長くできるという特徴があります。今後とも優れた特徴を持ったアルミ缶回収にご協力ください。」とご挨拶がありました。



理事長 花房 達也



経済産業省 金属課 金属技術室長
伊藤 隆庸 様



日本アルミニウム協会 企画部門長
飯田 康二 様

受賞者を代表して3団体様から受賞の喜びの言葉を頂きました。



ひだまりの会 ひだまり作業所
東 亜希 様

東様より「近隣の人々や施設利用者の家族、友人の持ち込みによって回収活動が成り立っています。今後も頑張りたい。」とのお言葉を頂きました。



上一色中町会
北山 昭次 様

北山様より「アルミ缶をたくさん集めた実績で、会館を立派なものに建て替えるほど頑張ってきたし、これからも頑張っていく。」とのお言葉を頂きました。



株式会社 池田
池田 勝己 様

池田様より「回収活動には人と人をつなぐ役割もあり、やめることは簡単だが、継続することは難しい。今後も継続できるように頑張りたい。」とのお言葉を頂きました。

アルミ缶リサイクル協会創立50周年記念式典

2023年2月で創立50周年を迎えるにあたり、12月2日に協会の関係者、協会OB、関係する省庁、団体や報道関係者にお集まり頂き開催しました。

最初に理事長の花房より、「我々の活動としてリサイクル率を言っておりますが、96.6%と高い水準のリサイクル率を達成しております。当協会の歩みを振り返りますと、関係省庁のご指導、ご支援と全国の各自治体のご協力でアルミ缶の回収リサイクルの仕組みを作り上げたことが高いリサイクル率に繋がった。又、報道関係者が協会活動を記事に取り上げ、市民の皆様がアルミ缶の回収活動に関心を持ち、リサイクルの輪が広がったことに感謝したい。我々の今後の活動としては、リサイクル率の中身に注目して、水平リサイクルすなわち缶から缶へといった再生利用率を高めていくことに注力していきたい。近年のUBCの海外輸出が増えてきておりますが、UBCの国内充実、循環、拡大を考えるとUBCの輸出はどうあるべきかを検討する必要があります。」と挨拶がありました。

来賓の経済産業省 製造産業局 金属課 金属技術室長 伊藤 隆庸 様より「アルミ缶のリサイクル率が96.6%と高い数字となっているのは、地域の自治体や団体の日頃の取り組みの成果が大きい。この制度を作ってこられた協会のご尽力に感謝している。アルミ地金は輸入に頼っており、海外の情勢変化の影響を受けやすく、ロシアのウクライナ侵攻や中国のゼロコロナ政策などの影響で価格や物流を通して安定供給が難しくなっている。アルミニウムの輸入依存を減らすように再利用をする資源循環の重要性がますます増してきます。出席されている製缶、圧延、再生地金の各社の皆様におかれましては、日頃から様々な技術

開発・材料開発に尽力されている。今後もアルミ缶のさらなる軽量化に取り組んでいただきたい。」とのお言葉を頂きました。

続いて経済産業省 産業技術開発局 資源循環経済課 課長 田中 将吾様より「1973年の設立以来アルミ缶の回収協力者支援や広報・啓発活動に取り組み、資源エネルギーの有効利用、空き缶公害防止の自然環境保護に大きく寄与されてきた。高いリサイクル率を継続されていることは、協会設立当初にアルミ缶の効率的な回収に関する知見を積極的に欧米諸国の実態調査を行い、我が国の地域社会・風土・特色を活かした回収ルートを確立した努力の賜物であり、改めて敬意を表し厚く御礼申し上げます。資源循環政策は、アルミ缶などの容器包装について廃棄物の最終処分場逼迫状況を解消すべく容器リサイクル法を施行しました。又、循環型社会を形成していくために必要な3Rの取り組みを総合的に推進していくための資源有効利用促進法(3R法)が施行され、容器包装の利用や製造を行う皆様に容器包装廃棄物のリサイクル及び資源の有効活用のご協力を頂きました。

こうした資源循環経済政策を推進する上で、多くのステークホルダーの皆様とアルミ缶回収のスキームを構築した協会の取り組みが貴重な経験値となっています。脱炭素社会を目指すために、皆様の知見とご支援のもと一緒に進めていけたらと思います。」とのお言葉を頂きました。

第22代理事長 白井 啓一様の乾杯の御発声の後、協会活動の発足からの歩み、お笑い芸人「アルミカン」のエコ漫才や抽選会などで盛り上がり、最後に副理事長の倉持 隆志の挨拶にて閉会しました。



経済産業省 金属課 金属技術室長
伊藤 隆庸 様



経済産業省 資源循環経済課長
田中 将吾 様



第22代 理事長
白井 啓一 様



アルミカンの漫才

2022年度(令和4年度)アルミ缶優秀回収拠点表彰

昭和58年に「優秀回収拠点制度」を設け、当協会認定の回収拠点様の中から当協会の活動に特にご尽力、ご協力下さった拠点様を表彰しています。本年度は新規受賞として有限会社 丸義産業(大分県宇佐市)、山口資源 株式会社(山口県美祢市)、再選として07年度に受賞した株式会社 池田(兵庫県高砂市)に決定致しました。



優秀回収拠点受賞(敬称略)



有限会社 丸義産業



山口資源 株式会社



株式会社 池田

エコプロ2022出展

エコプロ2022(主催(一社)産業環境管理協会、日本経済新聞社)は東京ビッグサイトで展示会を開催致しました。今年は感染対策を実施した上での開催となりました。

集客については、3日間で、6万2千人の入場がありました。当協会は3R推進団体連絡会の一員として、協会のブースでは「よくわかる!アルミ缶リサイクル」をテーマとしてパネルと現物の展示を実施致しました。今回もコロナ感染予防対策の観点

からクイズを自粛し、来場いただいた方に判りやすくアルミ缶のリサイクルについて見て頂く方式と致しました。

SDGsや環境教育を受けた学生さんで、アルミ缶のリサイクルについて熱心にメモをされていた方がおられたのが印象的でした。

次回はコロナの感染状況が好転した場合にはクイズ等での積極的な啓発を考えて行きたいと思えます。

エコプロ 2022
ブース風景

協会からのお願い

● タブは缶から外さずいっしょにリサイクル

アルミ缶のタブは環境保護のため、缶フタから離れないようにしてあります。タブはタブだけで回収するのではなく、缶に付けた状態で丸ごと回収してください。無理にタブを取るとケガをする場合もあり危険です。

● ボトル缶のキャップの取扱い

飲料用アルミボトル缶のキャップは、アルミ製です。キャップも貴重なアルミ資源です。キャップ・本体とも軽く水洗いした後、中の水分をよく切ったうえ、キャップを軽く締めて回収してください。

※自治体によってはキャップだけを別に回収しているケースがありますので、お住いの自治体の要領に従ってください。

● アルミ缶にタバコを入れないでください

アルミ缶にタバコの吸殻を入れると、リサイクルの妨げになるだけでなく、火災の原因になる可能性があります。



編集後記

- 旧年中は色々とお世話になり誠にありがとうございました。本年も宜しくお願い致します。
- コロナも行動制限の緩和があり、表彰式や50周年記念式典などの各行事を行うことが出来ました。又、治療薬の承認や国産ワクチンが申請されたとのニュースもあり、完全終息する事を祈念致します。

アルミ缶リサイクルニュース第162号

発行日 2023年1月24日

発行人 保谷 敬三

編集人 中島 計

発行所 アルミ缶リサイクル協会